



# もっと考えよう!藤沢市文書館(4)

## ～地域文書館の役割再考～

国際資料研究所 小川 千代子

### ■日本で最初の基礎自治体文書館、藤沢市文書館

約50年前の1974年、藤沢市文書館は日本で最初の基礎自治体の文書館として設立された。日本最初の文書館、自治体文書館の先進事例として、文書館界での知名度は非常に高い。また、藤沢市文書館は設立以来、藤沢市役所の有期限行政文書の引継ぎと保管保存を業務と位置付けることを文書館条例にもうたっている。

国内の自治体に情報公開条例が浸透した1980年代に先んじて、有期限行政文書の引継ぎと保管保存を文書館の業務に位置付けてきた。これは、文書館の先進事例として全国的に知られている。

### ■文書館の業務～藤沢市の誇りと地域の宝を守る～

昭和49年7月1日付制定の「藤沢市文書館条例」は全体を4条で構成する条例で、その第3条で文書館の業務を次のように規定している。

(業務)

第3条 文書館は次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) この市の歴史資料の収集、整理、保存、調査、研究及び一般への閲覧
- (2) この市の行政資料の収集、整理、保存及び研究並に市長が別に定めるものを除いた資料の一般への閲覧
- (3) 前2号の調査及び研究結果の発行
- (4) 前各号に掲げるほか、市長が必要と認めた業務

このように、藤沢市民の誇り、藤沢の宝である藤沢市の歴史資料と行政資料の収集整理保存及び一般への閲覧提供に加え、その調査研究結果の発行を藤沢市では文書館条例によりその業務と規定していることがわかる。

### ■藤沢市には、博物館がない…

ところで、繰り返しになるが、藤沢市が誇る藤沢市の誇り、藤沢の宝である藤沢の行政資料や地域資料をこの50年間、確かに保管維持管理並びに利用提供を行ってきたのは、藤沢市文書館である。その所蔵資料には、地域資料も、行政資料もみられる。がなぜかという、藤沢市には博物館や資料館が未整備なのである。藤沢

市には、図書館と文書館は整備されているが、2025年3月現在、博物館はない。(本誌No.137に関連記事)

### ■藤沢市文書館が担うべき地域での役割再考

藤沢市には図書館と文書館はあるが、博物館、資料館はない。近隣の横浜市、茅ヶ崎市、平塚市にはそれぞれ博物館が整備されているのを考えると、残念な気持ちは否めない。その代わりに、平塚市、茅ヶ崎市には文書館が見あたらない。となると、藤沢市のような文書館を持つ自治体と、博物館を備えながら文書館はもたないという近隣自治体の違いを確認しておきたい。

前項で見た通り、藤沢市文書館条例第3条は4号の規定がある。1号の歴史資料、2号の行政資料は、収集整理保存調査研究と一般への閲覧(提供)が文書館の業務とされている。

表1 条例第3条見る藤沢市文書館の業務

号	対象資料	取扱い
1	歴史資料	収集、整理、保存、調査、研究及び一般への閲覧
2	この市の行政資料	収集、整理、保存及び研究並に市長が別に定めるものを除いた資料の一般への閲覧
3	前2号の	調査及び研究結果の発行
4	前各号に掲げるほか	市長が必要と認めた業務

### ■平成13年制定の藤沢市情報公開条例の行政文書の管理等についての規定はどうだろうか。

#### 第8章 雑則

##### (行政文書の管理等)

第32条 実施期間は、この条例の適正かつ円滑な運用に資するため、行政文書を適正に管理するものとする。

2 実施期間は、行政文書の分類、作成及び保存その他の行政文書の管理に関する必要な事項を定めるものとする。について以下の記述がある。

3 実施期間は、その定めるところにより行政文書の目録を作成し、これを一般の閲覧に供しなければならない。

ここには「適正な管理を行い、分類保存等必要な事項を定め、目録を作成の上閲覧に供す」とあるが、具体的な行政文書の管理に踏み込んだ記述はみられない。藤沢市公文書管理条例、同文書館条例との連携等の具体的な規定が必要だ。条例改正が望まれる。

## おもな内容

もっと考えよう!藤沢市文書館(4) 担うべき地域での役割再考…1  
散歩道 FASSID 大来賞表彰式/全史料協関東部会例会…2

## DJIレポート No.139 20250331

文献/あしあと/活動 25.1.1~3.31……………3  
巻末随想①謎の煮物 ②絨口令 ③25才 lion「オト」訃報…4

## 【アーキビストの散歩道】

### (1) FASID 大来賞第 28 回表彰式での感想

1月15日、第28回表彰式と記念講演にzoom参加する機会に恵まれた。この時の表彰作品は「開発学はいかにあるかー中国にみる非欧米社会の知的可能性」、著者は汪牧耘(WANG Muyun) 東京大学東アジア藝文書院 特任助教であった。

1月15日、第28回表彰式と記念講演にzoom参加した。受賞者の講演を拝聴したことが、私には強い印象となった。このような機会をいただくことができ、誠にありがたかった。

受賞者王牧耘氏の講演は、分野は異なるものの、私にとっては大変示唆的な内容であった。実態をとらえがたい研究テーマである「開発学」を丁寧に考察し、定義を組み立てていく作業についての解説を

聞き、非常に強い刺激を受けた。その刺激に、私は深く感激した。コメントできるほどの消化はできていないが、これまでも今も一人悩ましく抱えている私の生涯の課題である「アーカイブ」をこの日の受賞者である王さんの「開発学」に置き換えると、私自身にもそのまま当てはめられそうな思考方法が示されたように感じた。配布資料にあった審査員のコメントに「珍獣発見」の表現を見つけたとき、消化したとは言えないが、私の悩ましさを見事に形容した一言だと感じ、正にこれだ！と思い、感激した。

この驚きと感激、深いところに届く良い刺激をいただくことができた。この表彰式にお誘いくださった服部洋子様、心からのお礼申し上げます。ありがとうございました。(ち)

### (1) 全史料協関東部会例会「電子公文書の管理」雑感

2月21日全史料協関東部会例会に参加した。開催案内書には、「テーマ「地方自治体における電子公文書の管理・公開の現状」；電子公文書に関する実態調査の結果について、国立公文書館より全国的な状況を御報告いただくとともに、電子文書の利用提供を今年度より開始した神奈川県立公文書館の事例報告をいただきます。これによって自治体間での現状把握・課題共有の場とします。」とあり、報告は、① 島林 孝樹 氏(国立公文書館 公文書専門官)「国立公文書館が実施した電子公文書の管理・保存・利用に係るアンケート結果報告」及び、② 内藤 潤 氏(神奈川県立公文書館 資料課)「電子公文書への対応と課題ー神奈川県立公文書館での事例ーの報告2本が組まれていた。

感想。電子関連は不安が蔓延の様子だ。いっそのこと、大量保存したい電子情報の紛失事故が起きたら、はっきりした方針をだせるのかも。それまでは様子見でダラダラやるのだろうと感じた。誰も責任もった提案はしない。組織の階層ばかりを慮るから、このままでは大きな事故が起きるまでは、この問題は結局放置されそう。いいのか？

会場はJR 京浜東北本郷台駅徒歩三分のアースプラザで、昨年も同じころにこの場所にきた記憶

がよみがえった。会場に入ると、嘗て若手だった埼玉太田さん、茨城富田さん、今は葛飾で活躍中の元藤沢櫛原さんなど懐かしい顔ぶれが見えて、うれしい。現在若手のナミさん橋本さんらもいた。こうして顔ぶれを確認して分かったことは、私って長老らしいということだ。会場をしきっていた寒川の平井さんは、昨日会う機会がありこのイベントに誘ってくれた。平井さん、感謝です。

発表後のパネル討論は、少し物足りない印象。問題点満載のテーマ。「電子文書」関連問題はもっと深掘りしてほしい。あえて指摘しておきたいのは、国立公文書館からの発表があると、地方文書館のメンバーはなぜかその発表情報への吟味や批判を行うことなく、所与条件ととらえてしまう傾向がみられることだ。これはなぜだろう。今回の発表では、国立公文書館のアンケート調査の成果発表があったが、肝心の調査票の紹介がなかったところは、とても残念だった。

どのような設問に対し、回答者はどのように回答したのか、このやり取りが明らかにされて初めて、調査対象ではない立場にある者にも、調査の全体像が見える。調査の全貌とその結果について、外部からも客観的に把握できるよう、情報提供が行われることが望まれる。(ち)

## ●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆■ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●

●『巨人フィンの物語』これは北欧の巨人伝説絵本と学術解説のコンビネーション文献、著者からの投稿です。

スウェーデン南部スコーネ地方の町ルンドの教会の地下にある「巨人の柱」。地元では、教会を建てた巨人が石化した姿であると伝えられています。巨人はなぜ、そこにいるのか？どうして石になったの

か？フィン伝説の研究者ローネ・モーゲンセンがスコーネ地方の各地で聞き取った伝承をもとに編み上げたスリリングな文章、地元の教科書の挿絵などを手掛けてきた画家トード・ニージェレンが美しい水彩画を寄せた絵本『巨人フィンの物語』を日本語に翻訳しました。

この本の特色は、絵本に 80 ページの解説がついていることです。ルンド大聖堂から始まる北欧紹介は訳者が各地で撮影した写真を交え、北欧の基礎情報を提供しています。「北欧・日本 巨人伝承の時空」では、北欧文学の専門知識を元に「巨人フィンの物語」の背景や展開を三部に渡って解説しています。この物語は、現在はキリスト教説話として知られていますが、北欧神話にルーツがあるとされています。解説では、北欧神話がどのようにして現在の形になったのか（第一部『巨人フィンの物語』ができるまで）、また 20 世紀に日本に伝わった経緯と展開（第二部「北欧教会建設説話から『大工と鬼六』へ）、そして、21 世紀の漫画としての結実（第三部「北欧神話と『進撃の巨人』」を解説しています。

若干思い入れの話をするならば、この本で取り上げたいいくつかの事象との関りは、わたしだけでなく何人かの方にとって、復活や復権の転機となるものでした。聖人の目が欲しいという邪な気持ちで始まったかもしれないけれど、せっせせせと働いて、敵のためにすてきな建物を作り、石になって、今でも完成を待っている巨人フィン。

そうした仕事が報いられる未来が見たくて、わたしは解説を書きました。

絵本でもあり学術書でもある不思議な本、ぜひお手にとってご覧ください。

2025 年 3 月 31 日 中丸禎子

<特設ページ> 書誌事項はこちら：

[https://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru\\_teiko/chosaku.html](https://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru_teiko/chosaku.html)

## ●千代子のあしあと●◆▼●◆●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.139 20250331A4 判 4 頁(本誌)

▼会員制メルマガナスの日通信 1月号 20250117,同3月号 20250317。(本誌巻末随想に転載中)

▼「海外アーカイブ・ボランティアの会の活動－憧れを経験にした 15 年－」『記録と史料』No.35 世界の窓 1 2025.3 全史料協発行 A4 判

### DJI 国際資料研究所の主な活動

2025 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

#### <執筆>

DJI レポート No.139 20250331A4 判 4p.PDF(本誌)

ナスの日通信 1月号 20250117,3月号 20250317

メルマガ配信(本誌巻末随想に転載)

「海外アーカイブ・ボランティアの会の活動－憧れを経験にした 15 年－」『記録と史料』No.35 1～7 頁  
世界の窓 1 2025.3 全史料協発行 A4 判

#### <調査>

1月30日～3月31日 辻堂東海岸 2 丁目松林公園  
設置経過につき情報公開請求、1月30,31日 2月12,13,18,19,26,28日 3月21日TEL連絡、1月30日、2月10日、3月27日訪問打合せ

#### <主催>

2月20日 寒川文書館運営審議会 寒川総合図書館  
3階会議室

3月25日 松本市文書館運営協議会 松本市文書館  
会議室

#### <参加>

1月6日 記録管理学会役員選任委員会 zoom

1月10日 デジタル・アーカイブサロン zoom

1月15日【FASID 国際開発研究 大来賞】第 28 回表彰式と記念講演 zoom (本誌 2 頁【散歩道】)

1月25日、2月22日、3月22日 町内会役員会、東海岸市民の家

2月6日 ChatGPT 徹底解説 WEB セミナー(株)E&Iレポート

2月21日 全史料協関東部会例会「地方自治体における電子公文書の管理・公開の現状」報告①島林 孝樹氏(国立公文書館 公文書専門官)「国立公文書館が実施した電子公文書の管理・保存・利用に係るアンケート結果報告」報告②内藤 潤氏(神奈川県立公文書館資料課)「電子公文書への対応と課題－神奈川県立公文書館での事例－；◎神奈川県歴史資料取扱機関連絡

協議会共催；神奈川県職員キャリア開発支援センター(あーすプラザ・神奈川県立地球市民かながわプラザ内)(本誌 2 頁【散歩道】(2) 参加記)

3月2日 令和 6 年度辻堂地区防災講演会 第 1 部「解説能登半島地震」加藤照之氏 第 2 部「初体験から～能登半島地震の教訓をどう生かすか～被災地で活動した藤沢市の消防士他職員による災害対応の現場のお話、藤沢市辻堂市民センター 3 階ホール

3月14日 塚本氏タラミーティング M 氏宅

#### <見学>

2月10日 藤沢市文書館見学(3階展示室、書庫棟、松本市文書館長石川善啓氏と)藤沢市

3月25日 松本市文書館隣接鎌田書庫、松本市文書館運営協議会書庫見学

3月27日 靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑の花見と国会本会議傍聴。初めて桜の開花標本木を見た。

3月28日 御所見のT-仔さん宅訪問。キャベツ、大根、ブロッコリー、桃の花を沢山いただく。

3月29日 T 議員来宅懇談

#### <その他>

1月13,20,27日、2月3,10,17,24日、3月3,11,17,31日  
ラウラ先生ルーマニア語お稽古 on-line

1月21日、3月18日 藤沢 MY ランチ

1月29-30日 小川ファミリー箱根対学荘静養

3月9日 小川宅ファミリーすき焼きディナー

3月20日 ケアマネ会議

3月24日 Tさんと千座ランチ、荏崎

#### <健康管理>

1～3月 医療受診録 辻堂金沢内科クリニック 4 回、やの歯科 6 回、マリソル整形外科 13 回、辻堂南口耳鼻科 3 回、星野眼科 3 回、藤沢徳洲会病院救急外来 2 月 15 日、介護保険ヘルパー週 1 来宅、介護用品業者来訪 2 月、3 月各 1 回

## ■ 卷末随想

### ● 謎の煮物(DJI ヌマガ「ナスの日通信」1月号既報)

正月松の内のこと、一晩一人暮らしとなった。なんだか気が緩んだのか、テレビの前でうたたね zzz。そして寝室へと移動して翌朝までゆっくり。目覚めてからも、のんびりと朝の日課を進めていた。見れば、食卓の上に栓抜きがある。使った覚えはない。あれ?と思って台所に片づけに行った。そしたら、台所には、大鍋いっぱいの人参の煮物があった。

暮れに正月向きの煮物を作ろうかと思って買い込んだ泥人参は袋ごとなくなっている。大根の残りも、小松菜もなくなっていて、冷蔵庫のかぼちゃもなくなっている。それら根菜類はすべて、大鍋いっぱいの煮物に化けていた。味付け、材料の切り方などなど、どれも自分のやり方ではあるが、こんな料理作業をした記憶は全くない。温めなおして食べてみたら、おいしい。でも、前夜から今朝までの間に、だれが作ったのか。

論理的には自分が作ったと推測される。野菜くずも、いつものように残っているし、前夜から今朝までは、一人暮らしだった。玄関のかぎも施錠されたままだ。無くなったものも思い当たらない。はてはて、はてはてはて、。煮物の謎は深まるばかりだ。

詮索は放棄して、この煮物を食べることに決めた。人参 6 本が色鮮やかになべの中で光っている。おたまで鍋をかき回したら、ソーセージも顔を見せてくれた。へえ、これは私でなければ考えつかないレシピだ。やはりこの煮物は私が作ったんだろう。だが、夜中に人参 6 本と大根と、キャベツとを刻んで大鍋でコトコト煮たなんて、記憶にございませぬ。納得がいかない。状況証拠は自分が料理したらしいことを示しているが、記憶はない。そんなのありか?

今年の正月は、大鍋の人参煮物。腑には落ちにくいものの、口にはおいしかった。認知始まりかな?

### ● 広島原爆緘口令『NHK スペシャル「原爆・いのちの塔」爆心地病院の壮絶記録 医療現場で見たものは』(DJI ヌマガ「ナスの日通信」3月号既報)

2月27日夜 NHK 総合 10~11 時放映。重い番組だった。これを見て思い出したことがある。子供の頃の記憶だから、忘れないうちに記録しようと思う。

それは、私が小 1 か 2 の頃のことだった。偶々広島原爆の話がラジオか何かで流れたのを聞いて、「ママも広島で原爆にあったの」と聞いた。私は母から、自分は広島で生まれたときいていたから。

だが、母の答えはなんと「失礼ねッ！」と叱りの一言。私はびっくりした。70 年位昔のことだが、この一言は忘れられない。なぜ私の質問が失礼だったのか、全くわからなかったし、今もわからない。それだからこそ、原爆記念の頃になると決まってこの

ことを思い出す。

私がおばさんになった頃（だからずいぶん以前）に、長崎では被爆経験には緘口令が出されていたという話を、別のテレビ番組で聞いてたことがあった。今回の NHK 番組では広島原爆緘口令ということばが聞こえた。とすると、GHQ の意向で 1946 年ごろから、長崎でも広島でも、被爆経験についての緘口令が出されていたということなのだろうか。

番組では根拠資料の紹介はなかったと記憶する。だが、被爆経験を口外するなという当時の社会状況には興味をわいた。被爆経験ありと口外するのは社会的に憚らねばならないこと、とされていたのだろうか。もし、そんな社会風潮があったのだとすれば、被爆者は社会から疎まれたり、蔑まれるような立場に追いやられていたかもしれない。被爆者がこんな社会的立場に置かれていたのかもしれない。

母の「失礼ねッ！」発言の裏には、何か原爆被爆に関する差別意識があったのだろうか。母は広島生まれということで自らが被差別的立場に置かれていると意識していたのだろうか?母は 1923 年生まれだから、原爆被爆とは時期的には全くつながらない。それなのに、なぜ 10 歳にも届かぬ幼い子供(だった筆者)の問いに、あんなに防御的、暴力的な返答をしたのだろうか?母の 3 回忌も済ませてしまったので、今となってはその思いを聞き質すことは叶わない。亡母の「失礼ねッ！」発言は謎のまま…。

### ● 訃報 国内最高齢ライオン「オト」(25) 愛知 豊橋

[2025 年 3 月 11 日 11 時 52 分] 日刊スポーツ引用

国内最高齢の 25 歳 6 カ月で死んだ雌ライオンの「オト」=愛知県豊橋市の「のんほいパーク」(豊橋市提供=共同) 愛知県豊橋市の豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)は11日までに、飼育していた雌のライオン「オト」が10日朝に死んだと発表した。国内最高齢の25歳6カ月で、人間なら100歳ほどに相当した。死因は老衰とみられる。園によると、オトは1999年、北海道旭川市の旭山動物園で生まれた。2001年にのんほいパークに移った。19年に老衰で死んだペアの雄と仲むつまじい姿を見せ来園者をなごませた。

右の写真は国内最高齢の25歳6カ月で死んだ雌ライオンの「オト」=愛知県豊橋市の「のんほいパーク」(豊橋市提供=共同)(ち)

<https://www.nonhoi.jp/event/p12829/> (20250322 確認)



Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電 ← DJI 電子バージョンのマーク ISSN 1342-632X

DJILレポート DJIホームページ: <http://www.djichuuyoko.com> No. 139 20250331

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸 3-8-24 phone 0466-31-5061 fax 0466-33-8535 Email: [djiarchiv@yahoo.co.jp](mailto:djiarchiv@yahoo.co.jp)